

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-740	A-770	21-088	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Lower risk of stroke after alcohol abstinence in patients with incident atrial fibrillation: a nationwide population-based cohort study 心房細動発症患者における禁酒後の脳卒中発症リスクの低下：全国規模のコホート研究			
執筆者			
Lee SR, Choi EK, Jung JH, Han KD, Oh S, Lip GYH.			
掲載誌			
Eur Heart J. 2021 Dec 7;42(46):4759-4768. doi: 10.1093/eurheartj/ehab315.			
キーワード			PMID
心房細動、 アルコール、 禁酒、 脳卒中			34097040
要 旨			
<p>目的：心房細動（AF）新規診断後の飲酒状況およびその変化と虚血性脳卒中リスクとの関連性を評価する。</p> <p>方法：韓国における全国規模の診療報酬請求（韓国健康保険サービス）および健康診断データベースを用いて、2010年から2016年の間に新たにAFと診断された者を対象とした。患者は、AF診断前後のアルコール摂取の状況により、非飲酒者、AF診断後の禁酒者、現在の飲酒者の3群に分類された。主要アウトカムは、フォローアップ中の虚血性脳卒中発症とした。非飲酒者、禁酒者、現在の飲酒者において、傾向スコアを用いた治療による逆確率加重（IPTW）による発生率差を用いて比較した。</p> <p>結果：新たに心房細動と診断された患者97,869人のうち、51%が非飲酒者、13%が禁酒者、36%が現在飲酒者であった。310,926人年の追跡期間中に、3,120人が虚血性脳卒中と診断された（1,000人年あたり10.0人）。5年後の時点で、禁酒者と非飲酒者は現在飲酒者よりも脳卒中リスクが低かった。現在飲酒者を比較対象としたIPTW発生率の差（1000人年あたり）は、禁酒者で-2.03 [95%CI -3.25, -0.82]、非飲酒者で-2.98 [-3.81, -2.15]であり、IPTW発生率比はそれぞれ、禁酒者0.83 [0.74, 0.93]、非飲酒者0.75 [0.70, 0.81]であった。</p> <p>結論： 新たに心房細動と診断された患者において、アルコール摂取は虚血性脳卒中のリスク上昇と関連しており、診断後の禁酒は虚血性脳卒中のリスクを低減させる可能性がある。臨床転帰の改善のために、心房細動管理の包括的アプローチの一部として、飲酒に対する生活習慣への介入を奨励すべきである。</p>			